
ISの世界へ！

人事部

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ISの世界へ！

【Nコード】

N8954Y

【作者名】

人事部

【あらすじ】

オリ主がISに転生して原作ブレイクしまくる話です。

第0話（前書き）

駄文ですが、宜しくお願いします。

第0話

プロローグ

裕哉 side

俺の名前は、神崎 裕哉って言うんだ。
俺は確か自分の部屋で寝た筈なのに
目を覚ましたら知らない真っ白な空間にいたんだ！
何を言っているのか分からないかも知らないが
俺の方が意味が分からないんだ！！

裕哉「とりあえず、そこらへんを捜さその必要は無いですよ。」
うおー！！びっくりした！！」

？「そんなに驚かなくても（汗）」

裕哉「いや、普通は驚くからな！？」

「そう言えばお前は誰だ？」

？「私ですか？」

「私はあなた達の世界で言う神です。」

裕哉「神ってあの神ですか！？」

神「どの神かは知りませんが
その神で合ってると思います。」

裕哉「へえ」。で、神様がこんな平凡な俺に何か用かよ。」

「てか、此処何処だよ。」

神「此処は天国と地獄の狭間です。」

裕哉「天国と地獄の狭間って俺は死んだのか!？」

神「はいあなたが寝た後に車が家に突っ込んで来てその下敷きになり死にました。」

裕哉「まじかよ!？」

「俺はまだ15歳だぞ!!」

人生の半分すら生きてねえんだぞ!!」

「なのに死んだとか最悪だわ。」

俺がへこんでいると、

神「しかしですね、その事故であなたはですね、」

何故か神が言いずらそうにしていた。

裕哉「まさかだと思うがその死が手違いで死んだとかだったら怒るからね（笑）」

神「す、すみません!!」

「私の部下があなたの命の灯火を間違っって消してしまったので死んだんです!!」

ちよつと待てーーーー!!!

イレギュラーで死んだとかだったら許すけどさ!?! 部下の失敗で死んだとか最悪じゃねーか!!

裕哉「ちよつとその部下呼んでこいやー!!」

「一発殴らねーと俺の気がおさまらねえー!!」

神「それは無理です。」

「あなたを殺した私の部下は

もうすでに重い罰を与えたので。」

「それで許してくれませんか？」

裕哉「それなら良いぜ!!」

神「良かったです。許してもらえて。」

裕哉「で、此処に呼んだ理由は、何なんだよ。」

神「此処に呼んだ理由はですね

そのお詫びとして違う世界で第2の人生を楽しんで貰おうかと思ひまして。」

「勿論何処の世界に行きたいとか決めてもらって結構ですよ。」

行きたい世界ねえ。

よし!

じゃあ、此処にしよう!

裕哉「行く世界はISの世界で!!」

神「ISの世界ですか？」

「分かりました。」

「次に能力は、何にしますか?一応20個までならいけますか?」

裕哉「そんなにももらえるんですか!？」

神「はい、此方の手違いでしたので。」

裕哉「じゃあ、まず一個目は俺を純粹種のイノベーターとニュータイプとスーパーコーディネーターにしてくれ。」「二個目はSEE D覚醒が出来るようにしてくれ。」

「三個目は専用機を20機とAIをくれ、AIはティエリア・アーデで頼む。」

「四個目は容姿をキラ・ヤマトにしてくれ。」

「五個目は最強のブリュンヒルデの織斑千冬より強さにしてくれ。」

神「これでいいですか?」

裕哉「ああ、それで良いぜ。」

神「それでは送りますね?」

裕哉「良いぜ。送ってくれ。」

神「分かりました。」

それでは、第2の人生を楽しんでください。」

そう言われた瞬間俺は意識を手放した。

裕哉
Side
out

主人公の能力（前書き）

本編が始まります。

主人公の能力

容姿は神様に頼んでキラ・ヤマトにしてもらった。

戦闘では、世界最強の織斑 千冬にも負けない。

専用のISの名前はGS中ガンダムシステムには数機所持しておりAIにティエリア・アーデが付いている。

専用機

GSに入っているのは

ストライクフリーダム

フリーダム

インフィニットジャスティス

(それぞれミーティア装備可能)

アカツキ

レジェンド

デステイニー

ダブルオーライザー

セラヴィーGNHW

ダブルオークアンタ

アリオスGNHW

リボンスガンダム

ウィングガンダムゼロEW

ガンダムヘビーアームズ改EW

νガンダム
が入っている。

純粹種のイノベーター
スーパードーデイナー
ニユータイプ
に加えてSEED覚醒もできる。

第1話（前書き）

思い浮かんだので投稿しました。

第1話

裕哉 side

裕哉「此処は・・・海岸だな。」

てか、何で海岸なんだよ!!」

ティエ「年代は大体原作開始の10年前だな。」

声が聞こえたので聞こえた方を見ると左手に付いているガントレットからだったので

顔の前まで持つて行くすると

いきなりティエリアがホログラムになって出てきた。

裕哉「うお!!びっくりした!!!!」

ティエ「そこまで驚かなくてもいいんじゃないか？」

裕哉「それもそうだな。」

てか、俺が神に頼んだんだからな。

そうゆえば、初期設定つてもう終わってんのか？」

ティエ「それは問題ない。」

すでに終わっている。

全ての機体を使うことが《ピピピ》……！全方位からミサイルが多数接近中！！

数は……二〇〇〇発だ！！」

裕哉「ミサイルと言う事は、白騎士事件か！」

ティエ「そうだろうな。」

どうする？介入しに行くか？」

裕哉「勿論！……そゆ訳だからストライクフリーダムを展開して迎撃行動に入る。」

ティエ「了解。ストライクフリーダム展開。」

裕哉「ミーティア装備！！」

ティエ「了解。ミーティア展開。ドッキングモード！！」

そう言つてミサイルが来る場所に向かった。

裕哉「あ、そうだ。」

向こうに着いたらマルチロックオンシステムを展開してくれロックオンは

俺とお前でやったらすぐに出来るだろ？」

ティエ「勿論だ。では、用意しておこう。」

裕哉「よろしく。」

裕哉 side out

千冬 side

私の名は織斑 千冬だ。

今はミサイルを迎撃しているのだが、数が多すぎる。

ドカン ドカン ドカン

千冬「これはきついな。
数が多すぎる。」

ドカン ドカン ドカン

束「ちーちゃん、まだまだ行けそう？」

千冬「何とかな」

ドカン ドカン スカッ

千冬「これはやばい！-！」

p p p p p p p p

千冬（左から高熱源反応接近！？）

ドッカーン

千冬「あれは・・・おい束、あれは何だ？」

束「そうだね、あえて言うなら未確認のISかな？」

p p p p p

千冬「オープン回線か。」

ピッ

裕哉「此方はストライクフリーダムです。
今からあなたをを援護します。」

千冬「ああ……分かった（ストライクフリーダムか。）」

裕哉「ミサイルの残りのは？」

千冬「残り本数は、2000本だ。」

裕哉「分かりました。

ティエリア！！」

ティエ「了解。

マルチロックオンシステムスタンバイ……ロックオン完了！！」

裕哉・ティエ「当たれえええええー！！！！！！」

ハイマツトフルバーストで500本は言った。

千冬「なんだとー！！」

ティエ「残り本数1500本！」

裕哉「まだあるかー！！」

ハイマツトフルバーストのチャージは何分かかる？」

ティエ「5分かかる。」

裕哉「それだと間に合わないよ!!」

ティエ「では、どうするつもりだ？」

裕哉「そうだ!フリーダムを使えば!!」

ティエ「そうか!

ストライクフリーダムのハイマツトフルバーストとフリーダムのハイマツトフルバーストは機体が違うから撃てる!」

裕哉「せうゆう事だ。

それにミーティアも装備すれば同じ数のミサイルを撃墜出来るとゆう事だ。

よし、そうと決まれば

機体変更!フリーダム!」

ティエ「了解。機体変更!フリーダム」そうティエリアが言った瞬間神崎の周りが光に包まれた。

千冬「な・・・何が起こってるんだ!？」

光がおさまるとそこにいたのは形が変わったISがいた。

千冬「な!!・・・形が変わっただと!!」

ティエ「ミーティア展開・・・ドッキングモード

接触まで5分だ!!」

裕哉「ロックオンシステム始動!!」

ティエ「了解ロックオンシステム始動……ロックオン完了」

裕哉・ティエ「行つけええええええ!!」

同じ数のミサイルがまた撃墜した。

裕哉「ティエリア!

ストライクフリーダムに!」

ティエ「了解」

そしてまたストライクフリーダムに戻り本数を減らしていく。

ティエ「残り8本!」

裕哉「行け!!ドラグーン!」

ドカン ドカン ドカン ドカン ドカン
ドカン ヒュン

裕哉「しまった!!」

千冬「はああああ!!」

ドカーン

裕哉「はあ．．．はあ．．．」

千冬「はあ．．．はあ．．．」

「ありがとう．．．助かった．．．私の名前は織斑千冬だ。」

裕哉「僕は神崎 裕哉です。」

千冬「男だと！！」

いや、今はそれよりもその機体はどこで手に入れた。」

裕哉「それは言えません。」千冬「そうか．．．しかしどうする？
各国家の軍隊が動いているこのままでは捕まるぞ？」

裕哉「潜水して逃げるので問題ありません。」

千冬「そうか．．．それではまた会えたら会おう。」

裕哉「はい、それではまた会いましょう。」

そう言つて2人は別々の方向に別れた。

千冬
s
i
d
e
o
u
t

第2話（前書き）

文才が今凄く欲しいです。

第2話

裕哉 side

よう、俺の名前は神崎 裕哉だ。

あの事件から8年がたちました。しかし驚いたのは白騎士事件に大天使の名前が付いて白騎士・大天使事件になっちまった。結果的に原作が始まるまで隠居生活をしようと思います。

しかし、俺の家はどこかなあゝと探して見つけたらびっくりしたなあゝ

だつて織斑家の真横だぜ！

神様は俺と一夏を親友にしたいのか！？
ま、合わないからいいが。

裕哉「なあ、ティエリア。」

ティエ「何だ？」

裕哉「俺のISってさ、神様に頼んだ機体以外にないのか？」

ティエ「機体は無いが設計図はある。」

裕哉「マジで！

じゃあさデステイニーを違うISとして作れるか？」

ティエ「出来る事は出来るがなぜだ？」

裕哉「いやさ、俺がいるとゆう事はさ

少なからずイレギュラーが出るじゃないか。」

ティエ「かも知れないな。」

裕哉「だからさ

デステイニーにAIも付けて作り一夏に匿名で送って鍛えるんだよ。」

ティエ「なるほど、それでせめて1人でも仲間にしておくんだな？」

裕哉「その通りだ。」

ティエ「しかし、匿名で送れば警戒されないか？」

裕哉「そうなんだよな

それが問題なんだよ

なあ、お前の名前を使ってもいいか？

匿名よりも何か信じてくれそうだしな。」

ティエ「別に、構わないがいけるのか？」裕哉「何とかなるって。」

裕哉 side out

一夏side

俺の名前は織斑一夏だ。

今は家で夕食の用意をしている所だ。

ピンポン

と、誰か来たようだな。

一夏「ちょっと待ってください。
どちら様ですか？」

宅配便「宅配便です。

ティエリア・アーデさんから

織斑 一夏さん宛てにお届け物です。」

一夏「（ティエリア？

そんな奴友達にいたかな？）ちょっと待ってください今開けますから」

そう言つて玄関まで行き鍵を開けて荷物を受け取ると宅配便の人はそのまま何処かに行ってしまった。

一夏「（なんだったんだ？）まあ、いいかとりあつずこれの中身は

何なんだ？」

そうゆって箱を開けるとゲーム機みたいなのが出てきた。

一夏「何だこれ？」

AI「織斑 一夏を確認しました。
システムを起動します。」

一夏「うおー！何だ！
いきなり動き出したぞ！」

俺が驚いているとゲーム機？みたいなからホログラムの人が出てきた。

ティエ「初めましてかな？」

僕の名前はティエリア・アーデだ。
以後宜しく頼む。」

一夏「此方こそ宜しく。
それで、何でティエリアさんが俺にこのゲーム機？みたいな奴を送って来たんだ？」

ティエ「説明するから焦るな。
その前にその機械の他にカードみたいな奴は無かったか？」

一夏「あるがそれがどうしたんだ？」

ティエ「それを取りあえず機械の上に置いてくれないか？
話はそれからだ。」

なに、心配しなくても僕達は君の敵では無い。」

そう言われても信じる事は出来ないが一応言う通りにカードを機会上に置くと、

AI「カードを確認しました。

ISの機体名・・・デステイニー

操縦者・・・織斑 一夏

を確認しました。」

一夏「うお！！何が起こってるんだ！？

てかこのカードってISなのかよ！！

ちよつと待てよ！？

今操縦者は俺って言わなかったか！？」

ティエ「その通りだ。

このISは君の為に作られたのだからな。」

俺の為？

一夏「それってどうゆう意味だよ！」

ティエ「そのままの意味だ。

君はISが使えるんだ。」

俺がISを使えるなんてウソだろ！？

ティエ「そして君はISが使えたとしてその力をどうしたいんだ？」

この力を使つてしたい事・・・

一夏「そんなの決まつてる！！

千冬姉や・・・俺に関わる全ての人を助けたい！！」

ティエ「いい返事だ。

それではこのISの事を全て教える」

この後2時間位話し込んだ。

ティエ「では織斑 千冬にこのメーアドを送って欲しい神崎 裕哉のメーアドだと言えば分かる筈だ。

そして、ISの練習をしたい時はそこにあるコーゲルを付けてカードを機会の上に置くと練習が出来るようになっていて。
では、また合えたら合おう。」

そうゆってホログラムは消えた。

何だっただんたろうか？

—夏side out

第2話（後書き）

こんな感じでいいかな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8954y/>

ISの世界へ！

2011年11月27日19時48分発行